

● 舵取りマニュアル(入門編・中級編)

1. 舵取りの役割

舵取りは、ドラゴンボートの操縦を受け持つ**船長であり安全管理者**である。ドラゴン艇に乗艇した瞬間から着岸し離艇するまでの操船の全責任を持ちます。この間、航行の安全と他船との接触・衝突を起こさないための注意と見張りをし、危険と思えば危険回避の操船をする必要があります。舵取りの足場は、狭かったり、悪い場合もあるのでシッカリと立てる位置を決めること。立ちにくいからと言って、座っての舵取りは禁物です。必ず立っての舵取りを行って下さい。また、ドラゴン艇乗員の中で、全体を見渡せるのは舵取りだけです。太鼓手や漕ぎ手への指示も的確に行い安全に航行できるように行わなければなりません。レースでは大会運営者の指示に従った航行と操船をして下さい。初心者は、直線走行やカーブでの舵取りの基本動作をよく学んで繰り返し練習してください。

2. スタートラインへの誘導

スタート地点への移動においては、レース中の他舟への注意もさることながら、レースへの影響を考慮しレースの舟が通るときは停船する。

船舶運航の優先順序は道路と同じく手漕ぎのドラゴンボートは優先されるが、プレジャーボートは業務として航行する船舶を優先されるので注意すること。



3. スタートまでの注意とレース中の注意について

ドラゴンボートレースで、衝突の危険性が高いのはスタート直後です。スタートラインでドラゴン艇がゴールに向かって舳先が真っ直ぐに向いていない場合に多く発生します。舵取りだけの責任ではありませんが、少しのズレも無いように舵操作を駒目におこない、舵取りだけで修正できない場合や潮流や風で艇が安定しにくいときは、漕ぎ手への的確な指示でスタートの瞬間を待たなければなりません。

- ①スターターからスタート位置へ前進する指示が出るまでの間、レース毎に定められた方法で艇を保持し待機する。
- ②スタート位置に着く時は、ゴールに向かって直線になりドラマーの延長線上に自チームのゴールレーンがくるように小まめに舵を合わせながら、ドラゴン艇を保持しなければなりません。

◎舵取りの目線(θθ) → ○ドラマー ……(コース)……(ゴールライン) → ■目標物・ブイなど

- ③風と水流を見定め、艇が流されることを想定したライン取りでスタート位置に付ける様にする必要が有ります。
- ④レースによっては舵取りが後手でロープを保持する場合やウオータマンが乗り込んだボートに横付けしてのスタートを待つ場合がありますので、ゴールへ直線的にドラゴン艇を保持、若しくは、方向修正が出来にくい場合は、舵取りは、太鼓手と最前部の漕ぎ手 4 人に進行方向への修正指示を与えなくてはなりません。特に初心者チームの場合、漕ぎ手に十分な理解と指示をしておく必要があります。

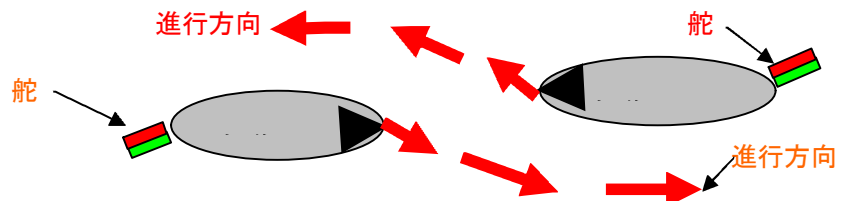
- ⑤レース中に隣や他のレーンの艇と接触しそうになる場合があります。明らかに大きな事故が予想される場合は、舵をきって衝突をさけるとともに、ドラマーと連携して艇を止めて審判の裁定を待ってください。それ以外に衝突の恐れがない多少のコース逸脱があった場合(自艇が隣のコースへ進入、他の艇が自艇コースへ進入)は、舵を立て直し、ゴール後の審判の判定を待ってください。また、各競技会の規則・規定・指示を熟知しそれに沿った操船をして下さい。
- ⑥レース中なんらかの理由により、太鼓手又は漕手が水中に落下した場合は直ちに停船し救助すること。
- ⑦総重量、約 2.0 トンの艇は、カーブし始めると急に大きく旋回する特性を持っており、この状態におちいると少々の腕力では制御できなくなるので一旦停船若しくは、微速航行にて体制を立て直す必要がある。また、風はもちろん波も受けようによっては、艇が旋回をはじめるので注意すべき点である。

4、ゴールライン通過後の操艇について

基本的に、ゴールラインを龍尾が通過後1~2艇身過ぎたところで一度停船し後続のドラゴン艇との接触が起こらないかを確認後に乗艇場に向かって旋回して下さい。

5、練習会での注意事項

- ①船舶運航に関する基本ルールは、航行安全法により対面する船舶同士は、互いに右方向への回避行動を取らなければならない。(右図参照)



- ②舵取り同士のアイコンタクト等による進行方向の確認や、相手の艇の進行方向を予測して、十分な安全運航が出来る間隔を取っておくこと。特に先行艇は後続艇の位置を確認して旋回すること。
- ③コース途中の休憩時には、他のチームの邪魔にならない場所に移動すること。
- ④他の船舶の航行により大きな波が来ることがあるので、横波を受けないように回避行動を取ること。

6、舵取り技術について

- ①舵棒の固定は、締めすぎず、緩すぎず、取り易い位置に舵棒をセットすること。また、乗るドラゴン艇の舵棒の異常(折れ・損傷と固定ロープのゆるみ)がないか?は、レース毎に舵取り自身が乗艇場で必ずチェックし異常なければクールを乗艇させる。
- ②舵棒は艇が進む度に後ろに引っ張られるので、位置が変わればすぐに修正出来るように心掛けること。
- ③足は前後に構えるが、艇の左右バランスを見て足の位置を決めること。
- ④艇が進む時には風に向かって行く。但し、ビル風が強いと艇は流され、風が終われば反転するので注意すること。
- ⑤舵は浅めに取りの方が対処し易い。但し、大きく方向転換をする時は、舵ブレードを深く入れて舵の効果を高める。

⑥舵は、舵固定支点を中心に艇の進行方向に平行に構え、舵棒の回転で、先端の舵ブレード角を調整して転舵する。

(別紙図参照)

⑦舵棒先端のTの部分握り、時計方向に回せば左転舵する、反時計方向に回せば右転舵するが舵ブレードが水の抵抗により外に押し出される力が加わり逆舵になるので、反時計方向に回すと共に舵棒を艇の外に押し出す様に力を加え、水の抵抗に負けないようにする必要がある。

⑧舵の固定は、後方に一カ所の支点と舵取りが左手で持っている位置で保持されているが、左転舵や右転舵した時に、舵ブレード面へ当たる水の抵抗に押されて逆舵に成る場合があるので、ブレードに当たる水の抵抗に負けない様、舵棒を進行方向平行に保持するようにすること。

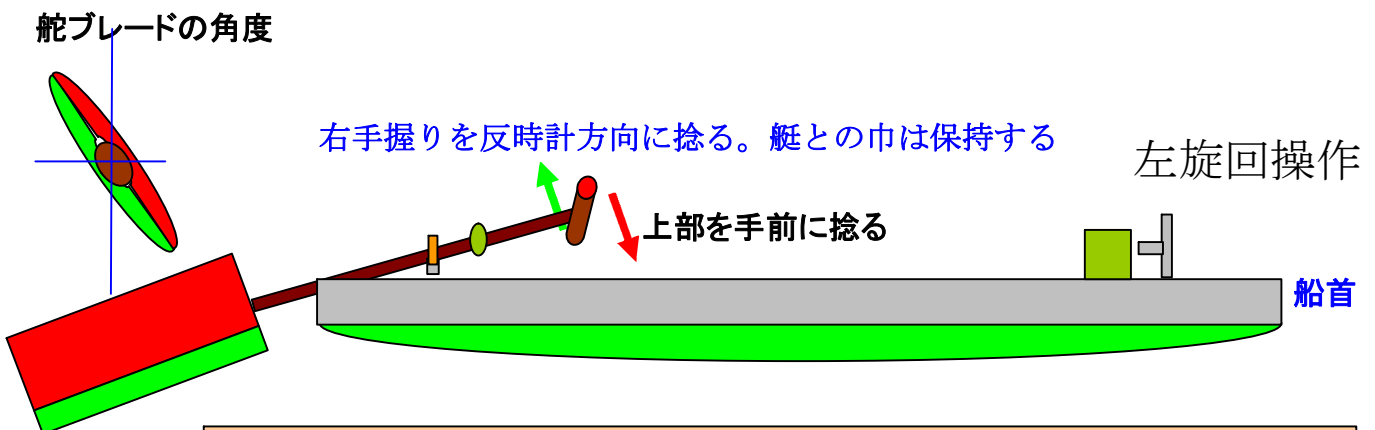
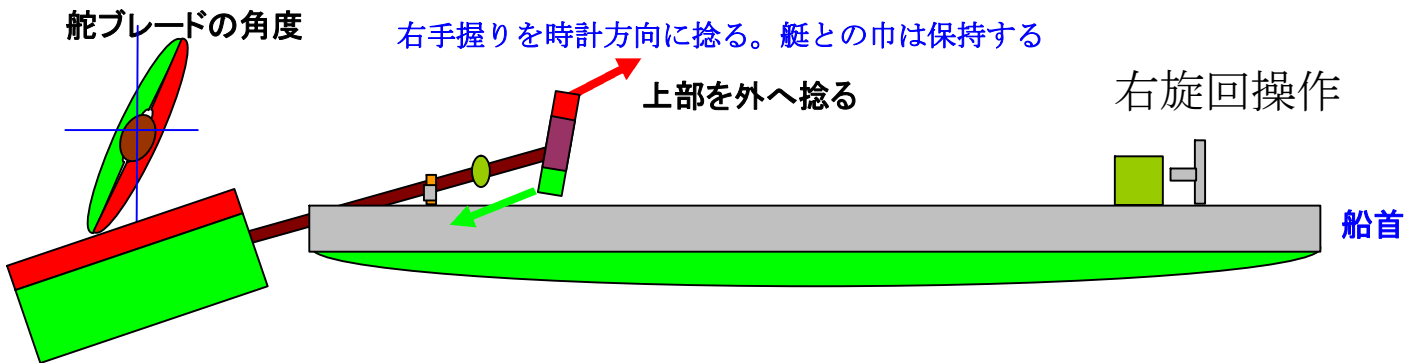
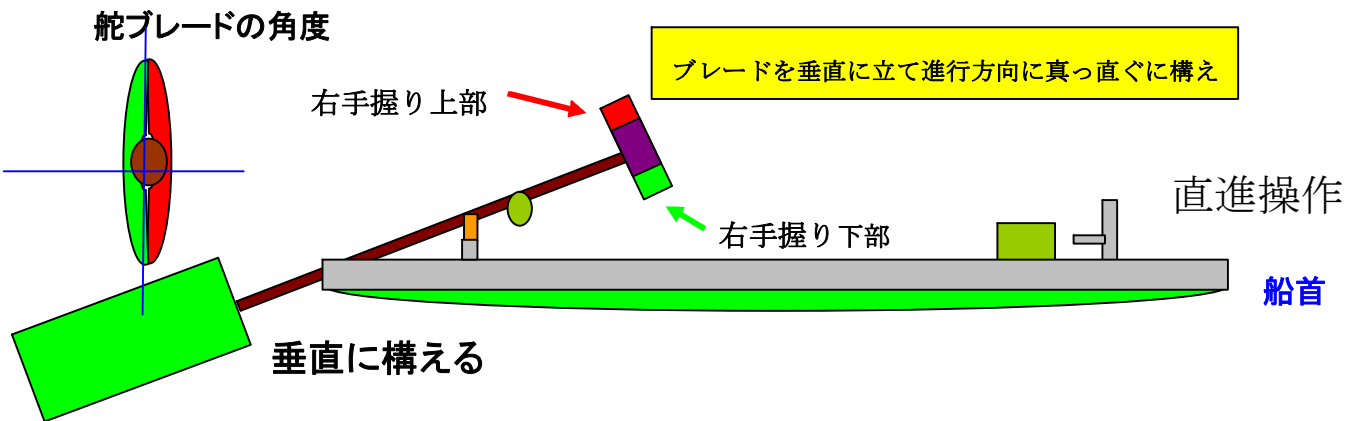
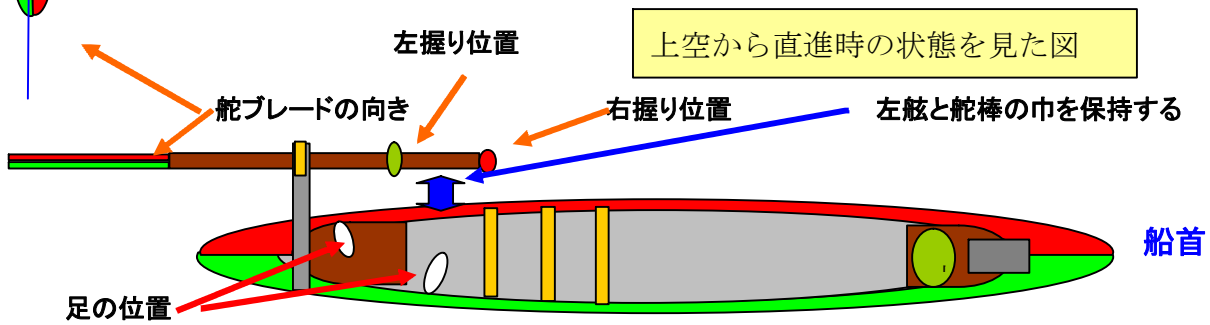
⑨ドラゴン艇の舵と船舶の舵との違いは、横向けか縦向けかの違いだけであり、ドラゴン艇の舵棒を立てて見ればその舵の方向が解りやすいので、初心者は、一度パドルなどで、確認し理解しておくことを進める。

⑩舵取りの進行目標は、自分の目線と鼓手の頭を結び、更に、ゴールラインセンター遠方の目標物を定め、その方向に向かって、一直線に結ぶ進路を取る。目標とする物体との少しのズレでも舵をきかせて即座に修正することが大事である。(3. ②を参照)

7、舵取りの腕は、勝利の女神？……

- ・舵取りを目指す皆さんは、ドラゴン艇の艇長でありクルーのリーダー的存在でもあります。
- ・大事なレースにおいて、コース逸脱せずゴールラインに向け、何処よりも一番早く一直線に突っ切るためにも、“風が”波が“左右のバランスが”……と色々な障害が発生しても動じない舵取り技術の習得を常々に心がけ練習して下さい。
- ・何度も言いますが、スタート直前の待機中に風や水と波の流れに押され、ドラゴン艇は、左右に流される事が有ります。その様な時には即座に修正する必要があります。舵取りだけで修正できない場合は、鼓手と前2列のパドラーに指示を發し、艇方向の修正を速やかにする必要があります。
- ・舵取りは、常々 自艇の先端をゴール中央に向けておく必要があるので、スタート位置からコース途中に設置されているパイ間とゴールブイ2個の間を通る線の遙か向こうの物体を目標物として設定し、それに向けた体制でアーティション・ゴアのスタートの合図を待たなければなりません。
- ・スタート直後にコース逸脱する艇は、スタート前のこの体制が取れなかったクルーが全てだと言っても過言では有りません。
- ・この舵取りマニュアルとともに、スタートマニュアルとセーフティーマニュアルも同時に習得して下さい。

※ 舵操作の説明図



舵の切れが不足する場合は、反時計方向に捻ると共に舵棒をさらに押とよい